



西

## 図書館長就任に当たって

附属図書館長 津留 宏道



今回はからずも図書館長に選出され、光栄に思うと同時に責任の重大さを感じている。就任に当たり、以下に所感を述べてみたい。

図書館は大学の知的水準を示すバロメータであると思っている。大学は教育と研究という二つの役割をもっているが、両者はいずれも教職員と学生の知的活動によって役割を果たし、評価に値する結果を得ることができるのである。知的活動を積み重ね、それを集約したあとに生ずる知識の結晶が図書であるとみることもできよう。それゆえ、図書を所蔵し、閲覧に供する場である図書館は、それぞれの大学にとって極めて重要な意味をもっている。広島大学は昭和24年5月に設置されて以来40年余りの歴史をもち、多くの先人達の御努力によって11学部（全国第2位）、教官定員数1,902人（第8位）、学部学生定員数2,833人（第2位）、大学院研究科数9（第7位）、博士課程及び博士課程後期学生定員数873人（第9位）、事務系職員等1,362人を有するまでに成長した。数値からみて確かに全国的に有数の規模といえる。

本学図書館は、初代古賀行義館長以来今日までに、図書（和漢書1,451,441冊、洋書1,015,168冊）計2,466,609冊を蔵し、これはおそらく全国の第6位か第7位に相当するであろう。建物は、本館、西条分館、医学分館、学校教育学部分館、教育学部分室の合計が12,352㎡であるが、東広島への移転完了時には、中央図書館は現在の約3倍となり、東及び西図書館、医学分館の合計は26,449㎡となる。また、教職員及び学生の図書館利用も盛んで全国的に高い順位にある。

以上のように、図書館は総じて順調な発展

を遂げてきた。特に情報化時代に対応すべく国際的な分類による整理と検索は着実に進んでいる。情報オンラインシステムは、鳴海館長時代に始まったが、当時としては画期的な企画であった。異例ともいえる文部省科学研究費により、全国に先駆けて本システムの研究と試行がなされ、昭和61年に一応の完成を見た。その後も陣崎前館長に至るまでの歴代館長及び関係教職員の並々ならぬ御努力によって、利用に便利なオンライン検索が作成され、実用に供されている。このような検索システムは年々進歩すると思われるので、今後も一層改良された設備と方法を求め続けたい。

現在の本館所蔵図書数は全体の16.7%にすぎないが、近い将来、東広島キャンパスの4館に70%を収蔵し、図書・資料の集中管理及び共同利用を促進しようという考えは、すでに全学的同意を得ている。学部や講座の事情は著しく異なるが、実施に当たって教官各位の格別の御理解と御協力をお願いしたい。その他、学習用図書館及び分館等のあり方、貴重図書の保管と利用方法、画像情報システムのあり方、図書・資料利用の能率化、常任理事館への位置づけ等、なお多くの重要課題が横たわっている。新年度も図書館運営委員会委員の顔ぶれは多士済々であり、私は各学部より選出されたこれら有能な方々のお力を存分にお借りするつもりである。図書館が長きにわたって大きく発展するためには、自らも非才の身に鞭をあて、折角先達が開かれた道を突き進みたいと思っている。構成員の皆様に対し、暖かい御助言と御支援を心からお願い申し上げる。